

# 平成17年度 稚内・名寄地区中学校春季バスケットボール大会 女子決勝戦評

土別南中学校	85	$\left\{ \begin{array}{l} 16 - 13 \\ 26 - 21 \\ 24 - 14 \\ 19 - 14 \end{array} \right\}$	62	稚内南中学校
--------	----	--	----	--------

主審 石橋  
副審 堀口

## 第1ピリオド

女子決勝は、準決勝を順当に勝ち上がってきた、名寄地区と稚内地区の1位同士の対戦となった。両チームともオールコートマンツーマンディフェンスでゲーム開始。序盤はお互いすばやい動きで均衡した点の取り合いとなる。その中で稚内南 野川の3ポイントが決まり、稚内南が優勢となるが、すぐさま土別南 佐藤がお返しの3ポイントを決める。点差が離れず、互いに緊迫した状態で1ピリが終了した。その差3点。

## 第2ピリオド

土別南のファールが増え、強いあたりのディフェンスができなくなる。そのため、稚内南に、オールコートディフェンスを突破される場面が多くなる。その中で稚内南 小笠原の速攻が冴え、更に 野川の3ポイントで31 - 27と稚内南が逆転する。ここで土別南がタイムアウト。

タイムアウトで作戦を立て直したのか、土別南がたて続けに速攻で4点取り同点となる。しかし、土別南のチームファールが5つとなり、フリースローで1点を決められる。その後も土別南のファールが続くが、稚内南はフリースローを確実に決められず、点差を離すことができなかった。

その間に土別南がリバウンド後のゴール下シュートやミドルシュート、3ポイントシュートと連続して決めていき、徐々に差をつけ始めた。土別南42 - 稚内南34と8点差になったところで2ピリ終了。

## 第3ピリオド

10分のインターバル後の第3ピリオド開始。土別南 佐藤と、稚内南 小笠原がお互いにレイアップを決める。両チームともオールコートDFで動きの多いピリオドとなった。稚内南の強いディフェンスプレッシャーに土別南のガード陣は苦しみ、ペースをつかめなかったが、佐藤のドリブル突破を機にペースを戻して行った。稚内南のテクニカルファール後、小林がゴール下を確実に決める。さらに石上の連続ポイント等で土別南が差を広げて行った。土別南66 - 稚内南48。その差16点。

## 第4ピリオド

開始すぐに、土別南 佐藤が3ポイントを決める。そして、立て続けに土別南がポイントを取って行く。しかし、稚内南も 小山が土別南の速攻に対応し、しっかり戻って確率の低くなったシュートのリバウンドを奪うなど頑張りを見せた。さらに、稚内南 梶原 田村が連続してシュートを決める。稚内南のタイムアウト後も 田村が3ポイントシュートを決めた。しかし、土別南 妻鳥のゴール下や 石上のレイアップが確実に決まり、稚内南は追いつくことができなかった。

最終的には、土別南85 - 稚内南62と23点差で試合が終了した。

個人的な戦評ではあるが、第2ピリオドで土別南のチームファールが5つとなり、稚内南が2ショットをかなり取った。もし、このフリースローを確実に決めることができたなら、前半はほぼ同点で終わることができたと思われる。点差の無い状態で後半を迎えることができれば、最後まで勝敗の分からない均衡したゲームになったのではないかと感じた。そういう意味で、この試合は第2ピリオドが勝敗の明暗を分けたのではないかと感じている。

フリースローは、練習の中では十分に時間が取られていないチームも多いとは思いますが、試合での重要性を、改めて認識させてもらった。

とはいえ、長身者のいない稚内南中がスピードとアウトサイドシュートで、サイズの大きな土別南中を相手に最後まで粘り強く頑張ったこと、また2年生だけのチームでありながら、身長だけでなくスピードも兼ね備え、見事優勝を勝ち取った土別南の活躍など決勝戦として見ごたえのある試合であった。

戦評 御 囲 彰